

## レキシコン・フェスタ 3

2015年2月1日(日)：国立国語研究所 2F 講堂

プログラム

10:00ー 受付

10:30ー11:00 窪菌晴夫(国語研)  
「アクセントと音節・モーラ」

11:00ー11:30 小磯花絵(国語研)  
「日常会話コーパスの構築に向けて」

11:30ー12:00 三井はるみ(国語研)  
「九州西部方言における条件表現の体系と多様性」

<昼休み>

13:30ー14:00 高田智和(国語研)・銭谷真人(早稲田大学大学院/国語研)・  
矢田勉(大阪大学)・斎藤達哉(専修大学)・小助川貞次(富山大学)・  
當山日出夫(立命館大学)  
「情報交換用変体仮名の選字」

14:00ー14:30 由本陽子(大阪大学)・伊藤たかね(東京大学)・杉岡洋子(慶應義塾大学)  
「「ひとつまみ」と「ひと刷毛」：モノとコトを測る「ひと」の機能」

14:40ー15:50 ポスター発表

<休憩 10分>

16:00ー17:00 宮川 繁(東京大学/MIT/国語研)  
「複合語と言語進化論」

ポスターセッション A (14:40-15:30)

- A-1. 儀利古幹雄 (国語研/学振)、竹安 大 (別府大学)  
「町名における平板型アクセントの生起要因について」
- A-2. Donna Erickson (Kanazawa Medical University/Sophia University), Jeff Moore (Sophia University),  
Atsuo Suemitsu (JAIST), Yoshiho Shibuya (Kanazawa Medical University)  
“The jaw keeps the beat: Speech rhythm in English, Japanese and Mandarin”
- A-3. 松浦年男 (北星学園大学)、五十嵐陽介 (広島大学)  
「天草諸方言における複合語と外来語のアクセント」
- A-4. 松井理直 (大阪保健医療大学)  
「摩擦音に後続する狭母音の性質と母音無声化について」
- A-5. 難波えみ (名古屋大学大学院)、玉岡賀津雄 (名古屋大学)  
「副詞と動詞の共起表現の多様性に関するコーパス研究」
- A-6. 梁 敏鎬 (韓国・聖潔大学校)  
「ローマ字表記の外来語化ー潜在的な外来語をめぐってー」
- A-7. 中澤信幸 (山形大学)、ティモシー・J・バンス (国語研)、マーク・アーウィン (山形大学)  
「台湾人日本語学習者の連濁意識についてー銘傳大学学生を対象としてー」
- A-8. Hyun Kyung Hwang (NINJAL), Satoshi Ito (Hiroshima University)  
“Correlations between prosody and epistemic bias in negative polar interrogatives in Japanese”
- A-9. Takayo Sugimoto (Tokoha University)  
“On the preschooler-specific Rendaku strategy: A longitudinal study of an English-Japanese simultaneous bilingual”

ポスターセッション B (15:00-15:50)

- B-1. Manami Hirayama (Ritsumeikan University)  
“Complete or incomplete? Neutralization between "true" and derived geminates in Japanese”
- B-2. 田川拓海 (筑波大学)、松浦年男 (北星学園大学)  
「複合動詞の連用形名詞データベースの構築」
- B-3. 中村明裕 (国学院大学大学院/国語研)  
「長野県木曾町開田高原方言のアクセント」
- B-4. 瀧口いずみ (国語研)  
「日本語学習者の母音長対立知覚における母語・発話速度・ピッチ型の影響」
- B-5. 熊 可欣 (名古屋大学大学院)、玉岡賀津雄 (名古屋大学)  
「中国人日本語学習者による日中同形語の統語情報への非選択的アクセス」
- B-6. 金 劍峰 (愛教大卒業生)、野崎浩成、江島徹郎、梅田恭子 (愛教大)  
(仮) 「情報分野の日中専門用語辞書の開発とその授業実践的研究」
- B-7. 浅井 淳 (大同大学)  
「連濁における典型形への参照性」
- B-8. Kohei Nishimura (Aichi Shukutoku University)  
“Prosodic division in Japanese compounding and morphological correspondence”